

## 平成 24 年度図書館情報学海外研修助成報告書

博士前期課程 1 年 八巻龍

研修期間：平成 24 年 11 月 23 日～平成 24 年 12 月 2 日

目的地：デンマーク（コペンハーゲン）

本研修では、デンマークの学校図書館における情報教育・情報支援環境について検討するため、コペンハーゲン市内の学校図書館及び公共図書館と複合した学校図書館の 3 館、また学校図書館支援団体 1 団体に対して視察訪問を行った。

### Solvang 図書館（Solvang bibliotek）

Solvang 図書館は、公共図書館と学校図書館が建物を共有しており、公共図書館と学校図書館の機能を複合している図書館である。館内はあまり広くはなく設備環境も新しいものではなかったが、生徒が自由に使えるおよそ 20 台のノートパソコン、デスクトップパソコンと無線 LAN があり情報環境はしっかり整備されていた。

この地域は移民が多く住んでおり、図書館の利用者の多くは移民や難民の子どもたちである。そのため、ここでは、「宿題カフェ」のような学習支援プログラムを開設しており、情報機器のスキルトレーニングも、このプログラムの中で行われているようだった。



図 1 Solvang 図書館内部



図 2 PC を使う子ども達

### Oehlenschlägersgade 学校図書館（Oehlenschlägersgade skolebibliotek）

館内にはデスクトップ PC が多数設置されており、図書館スタッフの業務には館内のコンピュータやシステムの管理も含まれているという。また、日本では学校図書館内にはあまりないインタラクティブホワイトボードも設置されていた。また、書架を見渡すと館内にある図書資料はそれほど多くなかったが、必要な資料は近くの公共図書館からすぐに取り寄せることが可能なため、それほど問題ではという。このことからデンマークの公共図書館と学校図書館の密な連携システムが伺えた。

### Ørestad 図書館 (Ørestad Bibliotek)

Ørestad 図書館は、去年開館したばかりの新しい図書館で、前述の Solvang 図書館と同じように、公共図書館機能と学校図書館機能を併せ持った複合型の図書館であり、地域の人々も利用することができる。館内の ICT 設備は訪問した 3 館の中で最も優れていた。館内で自由に使えるノートパソコンやタブレット端末の貸し出し、書架の側面に設置されており、館内の情報を見ることが出来るタッチパネル式の情報端末、プロジェクタを設置した視聴覚ルームの配備などコンピュータによって生徒の学習を支援する環境が十分に整えられていた。加えて、ここで働くスタッフも全員がタブレット端末を持ち歩き、メールチェックや、生徒の疑問に対する即時的なレファレンスサービスを行っているようであった。

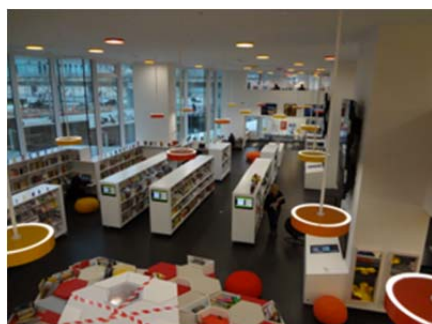


図 3 Ørestad 図書館内部



図 4 館内で自由に使える iPad

### Kommunernes 学校図書館協会 (Kommunernes Skolebiblioteksforening)

Kommunernes 学校図書館協会は 1933 年に設立された、学校図書館の支援を目的とした公的団体である。活動内容としては、デンマーク国内の学校図書館に赴いて、環境改善などの図書館が持つ様々な課題に対して提案を行うことや、児童への読書指導に関する雑誌や年会誌の出版・配布、さらに、優れた図書館に対する表彰を行うことなど、様々なものがあつた。

本研修を通じて、教科教育カリキュラムに根付いた学校図書館のサービスの必要性と、公共図書館との連携の有効性を、実際に見て感じる事が出来た。このようなデンマークの先進的な取組みは、日本の学校図書館におけるサービスの展開に大いに参考になると考えられる。

**謝辞** 今回、このような貴重な機会を与えてくださった図書館情報メディア研究科および茗溪会支部の橘会の皆様には厚く御礼申し上げます。また本研修を実施にあたり、様々なご助言をくださった図書館情報メディア系の吉田右子先生、本研究科博士後期課程の和気尚美様には心より感謝申し上げます。